

めだかの学校だより

令和 7 年 8 月 1 日

第 128 号

学舎：周智郡森町

「一宮総合センター」

事務局：静岡県磐田市

家田 529-20

TEL: 0539-62-6691

校長訓話

第二二八回 校長 今村 純子

生活改良普及員の活動を振り返って

『昭和 20 年 食生活指針静岡県発行』

が示唆するもの

昭和 55 年 12 月、明治 42 年生まれのお父さんの書棚を整理していたら、更紙の赤茶けた粗末な冊子の『昭和 20 年 8 月 食生活指針 静岡県』を見つけた。父は昭和 20 年当時、村の青年学校で軍服を着て、在宅青年の軍事教練等をしていたので、戦後の現場での食糧づくりもしていた。農林水産業は無くしてはならないもの、人々が元気に生きていくために欠かせない。人々の地域で先代が大切に残してきた教えを守り、そこにしかない「太陽・土・水」から作物を栽培し、世のすべ手の人々の大切な命を守る。人々の生活も食生活の基礎を確保して、一粒の米、麦等、主食を大切に、代用食、粉食等にも創意工夫してほしいと、指針では

教えていた。先人たちは混乱の中で貴い仕事をしている。この指針は、「敗戦を生き抜いた知恵」という副題がつけられて農文協の人間選書シリーズの 1 冊として平成 14 年に復刻版が出版された。昭和 16 年から 20 年にかけて、日本は太平洋戦争で苦難の道を歩んだ。全国すべての方々の生き場を襲った出来事は、戦争だから仕方がないと言うでしょうが、今後の若い方々に伝えておきたい出来事であった。あの頃の暮らしの大変化を体験している方々も少なくなっているが、当時を思っ、若い後継者を育ててほしいと思う。

両親とも教師で 5 人兄弟の長女として、戦中戦後の掛川小原の農村で育ってきた私は、昭和 32 年、県職員となり「生活改良普及員」の仕事をしてきた。昭和 30 年代は、「食糧増産」と共に「バランスの良い食料改善」を。昭和 40 年代は、「新しい農業経営の中で生活環境改善」を。昭和 50 年代は、「農産物の自

給向上とその加工品開発」を。昭和 60 年代になって、「女性の能力開発」と「山村地域の見直し」や、「都市と農村の交流」等々の時代に対応した活動をしてきたことは、やりがいがあった。

高度経済成長の時代にあおられて消費は美徳などといわれてきた中で、人々の堅実に生活する基礎は、やはり健全な家庭と地域にあることを、今改めて実感している。食料自給率 36% を聞く昨今、大丈夫かなと不安を感じるのは私だけではないと思う。

大切な農林水産業は人々が生きている限り必要である。日本は四季も豊かで、どんな方々も平等に「太陽・土・水」が与えられている。すべての方々にとつて大切な仕事、みんなで大切にしましょう。



めだかの学校伝言板

第 128 回めだかの学校を開校するので出席しなさい。

校長／今村純子

教頭／松本芳廣

用務員／玉木良汰

給食係／※給食は取り寄せです。

<学舎> 静岡県周智郡森町一宮 3150

「一宮総合センター」

※コロナはまだ収まっていません。

消毒とマスクはして下さいね。

開校日／令和 7 年 9 月 6 日（土）正午～

受付／大場敬子・大橋町代・榊原幸雄（後見人）

33 期通年テーマ：

『 人生百年時代 』

今回のテーマ：

< …と言うけれど… >

<時間割>

●総合「ひとりひとりが先生になって…」

—大きな輪を作って順番に 3 分以内で講話—

●給食は取り寄せです。

PM3:30 開校

めだかの動き

泳ぎ回るめだかたち

■「折角だから…」と差し出せるもの

新城市の山奥、ポツンと一軒家のノブちゃん「折角来てくれたから、上の観音様へ連れてってやる」と言って、ノブちゃんしか知らない観音様を拝ませてくれた。御前崎エコパークの貴美枝さんは「折角だから、あつちの花壇まで見に行ってみようか」と園内を一回りして、季節の花々を説明してくれた。

浜松市中ノ平の林を手入れしている静男さんも「折角だから、あつちの林まで行ってみるか」と言って、自生している珍しい植物たちを案内してくれた。

「折角だから…」私には幼い頃から馴染みある言葉だ。私は、北遠の山間に生まれ育った。「折角こんな山ん中まで来てくれたんだから、これ、持っていきなさい」と、採ってきたばかりの山菜や野菜を、来客に持たせる大人の姿をよく目にした。

「折角だから…」と差し出されたモノには、その人の人柄が滲み出る。「折角だから…」と、差し出されるソレは、その人が大切にしているモノだ。私だったら何を差し出すだろうか？

「歌だ」と思った。「折角だから、歌いますよ」と言葉が浮かんだ。そうだ。やっぱり私は歌を歌いたい。故郷の景色や、両親の面影を思い浮かべながら歌うのがいいな。みんなで一緒に歌える童謡や抒情歌がいいね。

大したモノではないけれど、でも私にとってはイノチの欠片のような歌を「折角だから…」と差し出して歌って8年。歌は多くの出会いをもたらしてくれた。「お

かえり」と待っていてくれる三遠南信各地の友達に元へ、「歌」というお土産を携えて向かう。天竜川



河口から諏訪湖を目指す私の旅路。今夏は、長野県飯田市「猿庫の泉」で歌う。
(埴田千聡メダカ)

■全国まちづくり交流会 それから一開催

全国まちづくり交流会は、昨年北海道津別町での開催の第20回で終了となりましたが、簡素化してもう1度集まることになりました。日程は令和7年9月4日(木)・5日(金)『全国まちづくり交流会』それから『銘打って、豊田市足助町で開催します。4日(木)は交流会18時〜、5日(金)は足助散策。問合わせは足助観光協会 0565・62・1272へ。』

めだかの学校では、LINEのめだかの学校グループで発信されています。締切りは7月31日で、めだかの学校だよりが届く頃は締切られています。今のところ出席者は村松達雄メダカ、松本芳廣メダカ、「かがり火の会」の菅原欽一メダカ、松林建メダカです。私、バラメダカは夜の交流会が無理で、まためだかの学校が翌日の6日にあるのであきらめました。みなさんに会えないのが残念ですが…。(バラメダカ)

■信州遠山郷めだかの学校特別教室

来る11月9日の日曜日、遠足を兼ねた『信州遠山郷めだかの学校特別教室』を、飯田市南信濃で開校することになりました。

た。詳細はこれから詰めていきますが、集合など予定時間は、9日の日曜日午前7時半に学舎に集合、8時に出発、南信濃には11時ごろ到着、そのあと特別教室を開催し、午後6時半ごろ帰着します。

参加費は3000円(お弁当代、温泉入浴代など)・プラスバス代など交通費。授業は地元玉置洋一メダカの進行で、地元の人の講話と、めだかの学校事務局からの話しとなります。地元の人との交流も楽しみです。実行委員長は秋山勝則メダカ、副委員長は埴田千聡メダカ。参加希望者は早めに事務局へご連絡を！9月6日のめだかの学校日を最終締切りとします。「道の駅遠山郷」は10月4日再始動、「かぐらの湯」も、さあ、みんなで行こう!!。(事務局 バラメダカ)

『人・ひと・ヒト…だより』

●磐田市の草地博昭メダカ。海老で食卓を笑顔にする日本海老協会の名譽海老大使に任命されて就任した、だつて。磐田市は年間200トンの陸上養殖エビの産地で、また京料理などに使われるエビイモの日本一の生産量を誇る産地でもあります。ハイ。いや、海老の冠をかぶった姿、まさに海老にぴったりでございますヨ(笑)。高橋英樹さんや料理愛好家の平野レミさんらもそうだつて。

●三島市の野村諒子メダカ。磐田市議の鈴木弥栄子さん、新人の大迫由美子さん、高塚静子さんの3人の市議さんは県内女性議員の仲間「なないろの風」の仲間になっています。裾野市から浜松市まで、24人の仲間がいます。3人ともめだかの学校に入っていたくはどうかでしょうか。私も一緒に頑張りたいと思います。県議の川崎和子さんも仲間です、だつて。6月7日に

めだかの学校で溝口さんにお会いできるのも楽しみです。とも。女性や若い人がめだかの学校に入校、いいですねえ。大賛成です。女性はずくに校長先生候補ですよ(笑)。

●浜松市村木謙式メダカ。目だかの皆さんいつも元気で活動されありがとうございます。私、村木は3月31日をもって「はままつフラワerpark」を退社致し、毎日が日曜日の生活を考えていました！けど無理！何かする事ないか！って頭がくるつちやいそう！お世話をする人が居た、近所の食事処の料理長！うちの関連会社でやってみては？とんで、ご紹介を頂き喜んで、土日はいそがしいぞと元気に最後の生活を「ゆうが」に過ごしているボケメダカでござる。久々に参加したいと思つて。6月7日出席です、だつて。よかったね。村ちゃんは働き者だもんね。これからは出席無理かアア。

●磐田市の鈴木祐之メダカ。…何か日曜日に特別授業を企画しているようで(温泉付き)楽しんでおります。道の駅はいろいろと車で出かけ楽しんでおり、「かぐらの湯」も3回ぐらい利用させていたたいです。いい湯でしたよ！。故障がやっとなおつて再開できてよかったデス。一泊ツアーですか日帰りですか？だつて。いや、早速の特別授業、出席表明、嬉しいですね。11月9日(日)日曜日の予定です、ハイ。

●磐田市の大島たまメダカ。小満の頃、畑の草だけが元気に成長しております。7日の「めだかの学校」楽しみにしておりますが、売木村の仕事が入ってしまい残念ですが欠席です。溝口さんのパワーあふれるお話もお聞きしたかったのですが…。令和の米騒動、史上最高の物価高の折、仕事優先せざるを得ません、だつて。ホント年

金だけの生活者にはもう大変でございますヨ。スパーに行けば、真っ先に目に入るのは『何割引』の値札だったりして(笑)。

●森町の榊原淑友メダカ。本当に暑いのか寒いのか分かりません。今年のお茶もやっと終了しました。皆さんが自然農法の良さをやっと理解してくれるようになりまして。ただ無農薬なら良いと云う訳ではありませんね？だって。淑友節を聞けばうなずける。給食の時に飲んでるお茶、実体験そのものですぞ！ハイ。

●磐田市の伊藤英雄メダカ。PC操作が難しくなっている。ゴメンね。運転は車の副作用で禁止だってさ。視力失明します(まだ見える見える)。歩行転倒の恐れあり。ステッキを用意する。原因は加齢だって。出来る事柄探しています???。生涯在学生徒を目指して、だって。年齢を重ねると色々故障部分が出てくるね。付き合っていくしかないね(笑)。めだかの学校200回を目指して。その前に35周年記念交流会をやるう!!あと3年、頑張ろう!!と。

●静岡市清水区の花井孝メダカ。マンネリ化は、視点・感点を変えれば伝統と言えますが、時には”目から鱗”の新鮮さで刺激を図る。例えば毎回順番に1人1人自己紹介を兼ねて近況と共に”近頃気になっている話”を壇上で話をする。「昔、青年の主張」弁論大会の様な事を毎回3、4人づつ行なう。メダカの生徒一人一人の”存在感”づくりと共に自己実現の機会となると考えられます。だって。提言ありがと”ございます。出席できない人も、便りを通して伝えていければと思っていますが。手紙まっすヨ!!

●掛川市の鳥山剛メダカ。今年から新しく始めた活動です。公益財団法人”オイスカ”が1961年設立された”子供の森”計画をはじめ30周年になります。パプア

ニューギニアを始め、モンゴル等全世界41か国で活動して、オイスカの職員たちが現地です子供たちに指導しています。私が誘致を担当した35教団が母体となり、浜松オイスカ高校を運営しています。オイスカ活動の資金の一部として未使用切手を利用しているの、たくさん未使用の切手を贈りました。使用済切手は、メダカの学校にも送り、切手色々な活動に協力することにになりました。だって。アサギマダラの活動が縁で、静岡英和女子学園宣教師宅の保存活動に参加することにもなりました、とも。

●浜松市の藤波公子メダカ。校長訓話、とても楽しく拝読。常々めだかの人材の豊富さに驚きと共に心躍ります。意外と私もロツク、ジャズ、クラシックと大好き。聴くためには足を鍛えなければ!花井孝様の文も感じ入りました。椿サマー!と日々清く明るく元気です。御心淋しいですが、前向きな心は青春!をいただきました。誠にありがとうございます。だって。まためだかの学校の皆様から、いつも良きお言葉をいただきましたありがとうございます。3月6日も出席したつもりで、継続入学金と共に7000円送ってくれました。いつもお心遣い頂き感謝です。

●東京都のかまちよろメダカ。第31回「風に吹かれて音楽祭」で作詞賞をいただきました。めでたしうれし、だって。良かったね。凄いいね(笑)。

●浜松市の蜂須賀千賀子メダカ。英語を話せるようになりたいと思っていたら、今はスマホが世界中の言語に訳してくれる。でも話せるようになれたらと思っす。あいつはできてても日常会話ができたらなあと思いつつ、機会が少ないけどね。加齢と戦いながら枯れないようにがんばります、だって。枯れ木も山の賑わい、と

言われるけど、枯れていない方がいいよね(笑)。

「新入生紹介」

●磐田市の玉木良汰メダカ。令和7年4月の市議選で25歳で当選、市議に。会派は芦川和美メダカと同じ会派だ。2022年には、磐田市で初めての男性観光大使に。めだかの学校では、一番若いピチピチメダカです。

※なお、33期のめだかの学校には、高塚静子さんと山本真由美さんが入校予定です。いや、校長候補が2人も増えて嬉しいですね(笑)。

「訃報」

●神奈川県横浜市の山根圭二メダカ。去る5月19日、永眠いたしました。享年87歳。葬儀は、家族葬にて5月24日に滞りなく相済ませました。生前中の厚誼に深く感謝申し上げます。同封の手紙は、故人の遺言により送らせて頂きました。と、喪主の山根順子さんから送られてきました。

遺言の手紙
この手紙は、頭が未だしっかりしているうちに書いておいて小生の死後、そちらに郵送してもらうよう家族にたのんであるものです。

小生は2013年4月28日、名古屋にてキリスト教会の洗礼を受けました。毎日、よるこんで生きています。死後、遺骨は横浜の教会墓地に入ります。横浜に来て、本当に良かったと思っす。

葬儀は遠方よりのご足労誠に申し訳なく思いますので、勝手ですが、ごく小さく家族葬だけで、とたのんであります。また香典の儀はつつしんでご辞退させていただきます。大変お世話になり、ありがとうございます。いろいろな病氣がありますが、こ

んなに長生きするとは思いませんでした。感謝です。2020年7月31日山根圭二

なんと、5年ほど前に書かれているものです。山根圭二メダカは、平成18年3月の第51回の校長先生です。また毎回楽しいお茶目のメッセージを送ってくれました。ご冥福をお祈りいたします。

●磐田市の鈴木正士メダカが、令和7年7月17日(木)午前7時26分に永眠いたしました。享年76歳。謹んでお悔やみ申し上げます。心からご冥福をお祈りいたします。なお、通夜は7月21日月曜日、午後6時から。葬儀・告別式は7月22日火曜日午前10時から浜松市天竜区二俣町JA遠中セレモニア天竜で執り行われました。通夜には多くの人がお別れにきました。正士さんの人脈の広さと深さをお伺いすることができました。ありがとうございます!正士さん。感謝。

おもしろ人立めだかの学校生一同
※次回の「めだか春秋」で『正士さんを偲んで』と題して掲載します。みなさんも共に偲んで頂ければ幸いです。
(バラメダカ)

× × × × × ×

もっともっと伝えたいのですが、紙面の都合で今回はこれまで。LINE、FBのみなさんごめんね。また内容に季節のズレがあります。お赦し下さいね。バラメダカ

《お知らせ》
めだか春秋は今回お休みします。

■事務局だより

暑いですがねえ！。みなさんいかがお過ごしでしょうか？。体温以上の高温の日もあり、熱中症にならないようにするのに一杯です。ご自愛ください。

さて、第127回めだかの学校は、令和7年6月7日の土曜日。校長は若尾和孝、教頭は水村春江、用務員は山本裕三だが、用事があつて会費を納めて急遽早退。なんとかお弁当を渡すことができた。と言う訳で代理を村田徳治メダカに頼む。今回も人の集まりが遅く、10分遅れで開校する。新入生はなんと25歳の玉木良汰メダカ。もうひとり久しぶりに出席の飯田市南信濃の玉置洋一メダカ。

お楽しみの給食は、いろいろ豊かな磐田市豊岡の和食処「なかや」の幕内弁当。消費税別1200円。美味しかったが古川屋さんのお弁当が好きだな？とは影の声。給食のあと全員で写真撮影。24名。カメラマンと早退の人ごめんね。1時10分からの校長訓話。若尾和孝校長「豊岡村役場の時、鈴木正士さんのもので仕事をしていた。5年ほど前、仕事で悩んでいた時、正士さんが2回も家に訪ねてきてくれて『絶対やめてはダメだ!!』と何度もさとしてくれた。今元気にしているのは正士さんのおかげ」と。ギター片手に新曲を披露。ちよつと力が入っていたようだ。笑。

事務局のお知らせでは、玉置洋一メダカが「故障していた温泉『かぐらの湯』が修理も終わってリニューアルオープンする。また新しく道の駅もできるのでは非めだかの学校の特別教室を



やつて欲しい」とのこと。みんなに提案したところ、11月9日の日曜日「信州遠山郷、めだかの学校特別教室」を開くことに。実行委員長は秋山勝則メダカが引き受けてくれること。

1時30分からの1時間10分の特別授業。溝口久先生の「社会」がままに。スライドを使って語る。「今があるのは正士さんのおかげ」。

県職のとき豊岡村役場へ出向、正士さんのもとで働く

と。県を定年まで3年残して早期退職。小山町の込山町長から声をかけられ単身赴任で小山町に。多くの施設の改革に取り組む。町長が代わったことで茨城県の境町に。結婚記念日にJR九州の豪華列車にと、というろ。さんから小田原の古民家をすすめられて、自分好みに改修して、そこを拠点に多くのイベントを開催し人脈を広げた。と。彼にとってはホンの一部のようなが。:

そのあと次期3役発表。『人生百年時代』と言われる今日此の頃、百年に一番近い今村純子メダカを校長に、教頭は県職時代の後輩の松本芳廣メダカ、共に居らず、校長代理は鈴木真弓メダカ、教頭は田村進治メダカ、用務員は百年時代に一番遠い25歳の玉木良汰メダカ。33期最初



の第128回めだかの学校はどんな授業になるのか楽しみです。最後はみんなが『今日の日はさようなら』を歌いつつ握手してお別れを！。

第128回めだかの学校の職員会議を、7月12日(土) 10時から学舎で行いました。校長今村純子、用務員玉木良汰、石野省三、榊原淑友、鈴木真弓、埋田千聡、榊原幸雄、信州遠山郷特別実行委員長秋山勝則の8名が出席。教頭の松本芳廣はそば講座があつたため欠席。今村校長と玉木用務員のあいさつのもと、33期の通年テーマと128回のテーマ、授業について話し合う。今回は3役については『人生百年時代』に一番近い人と、一番遠い人を指名したので、33期の通年テーマは『人生百年時代』に、第128回のテーマは運動して『...』と言われても...にする。授業については「1人3分ぐらいで前に出て話してもらったら...」と生徒からの提案も出ていたので、33期の3に合せて『全員先生になって1人3分以内で話す』ことに決める。「前に出て1人3分ずつ話すのでは時間がかるので、机を後ろに片付けて、椅子のみで円陣を組んで順番に話したら」と、お互いの顔もよく見えるし、この方法に決める。第128回の内容については決まったので『信州遠山郷めだかの学校特別授業』について話し合う。



■第33期の受付を始めています。
第33期は、令和7年9月1日から令和8年8月31日までです。6月の開校日より受付を始めています。7月15日現在38

名の生徒が申し込みを済ませています。毎年度手続きが必要です。まだ未提出の人には再度申込書を同封します。8月31日までに10000円を添えて提出してください。手続きがなされない生徒は自主退学扱いとなります。ご注意ください。

■今回も遅れました。ごめんなさい。
いつも生原稿のメール打ちの石野省三メダカ、秋山勝則メダカ、村松達雄メダカ、大島たまよメダカ、埋田千聡メダカ、水島加寿代メダカ、写真撮影の横山忠志メダカ、まとめてくださる間瀬亮太メダカ、発送などのお手伝い榊原明美さん、ありがとうございました。

■めだかの学校だよりの原稿を！
今回の発行は、令和7年11月1日予定。締切10月15日です。みなさんの日頃の活動をお手紙・FAX・LINE・FBでメールの方は、

《mavun.f100@gmail.com》
間瀬亮太090・5009・0986です。
(アドレスが変わりました。まだ昔のアドレスも可)

■めだかの学校の事務局

〒438・0105 静岡県磐田市家田5
29番地20 榊原幸雄方 TEL 05
39・62・6691 (FAX 同じ)
※学舎「一宮総合センター」周智郡森町一宮3150。電話 0538・89・77
30 開校日の午前11時以降のみ使用可。
携帯 080・1612・9130

